

特別展

世話物の世界

— 壺坂観音霊験記より —



▲▶平成25年萬歳樓
「壺坂霊験記 三幕～住家より谷底まで～」

国指定重要無形民俗文化財
▲知立山車文楽「壺坂観音霊験記」(愛知県知立市)

同時開催

(2階企画展示室にて)

特別陳列「飾金具・塗り・蒔絵
—長浜仏壇のかたるもの—」



飾金具・蒔絵下絵・関連文書など
50数点を展示

背景(右): 歌舞伎「壺坂霊験記」招き(壺坂寺蔵)
背景(左): 竹生嶋出現尊像(長浜城歴史博物館蔵)

開催期間

平成25年11月11日(月)～12月15日(日)

NAGAHAMA HIKIYAMA MUSEUM

曳山博物館

ON THE CROSSROAD OF OTEMON St. AND HAKUBTSUKAN Ave.

開館時間 9時～17時(入館は16時30分まで) *期間中無休
入館料 大人600円、小中学生300円(団体20名様以上2割引)
*長浜市・米原市の小中学生は無料
*長浜浪漫パスポートをご利用いただけます。

特別展

世話物の世界

— 壺坂観音霊験記より —

浄瑠璃「壺坂霊験記」は、明治になってから作られた新しい作品で、奈良県高取町にある壺阪寺（南法華寺ともいう）のご本尊である十一面観世音の功德を題材にしたもの。貧しい暮らしの中、夫の目の回復を願うけなげな妻と、疑心暗鬼に落ちた盲目の三味線弾きの夫の物語であり、最後は観音さんによって一度は失った命も蘇生し、目も見えるようになったという霊験譚である。壺阪寺にはもう一つの霊験記「さよ姫伝説」がある。壺阪の村に住むさよ姫が亡父の十三回忌をつとめるため身を売って陸奥国に行く。そこでさよ姫は大蛇の生贄として代わりに自分が求められていたことを知る。決められた池の中嶋で待つと、やがて10丈（30メートル）もある大蛇が現れた。しかしさよ姫がお経を読むと経典読誦と親孝行の功德により、大蛇は成仏を確信して歡喜、姫君を乗せて昇天する。実はさよ姫が弁財天、大蛇は壺阪の観世音菩薩であった。このように末世であっても信心があれば二世安楽間違いなしと結んでいる。

興味深いのはさよ姫が弁財天の化身であるという点である。ご存知のように弁財天は竹生島のご本尊であるが、もともと当地には浅井姫命（あざいひめのみこと）が鎮座し、水神として崇められていた。弁財天は仏教の水神であるがゆえに後世、天台宗系の僧が習合させ、祀りはじめたのである。巖島や江の島の弁財天は、この竹生島の影響を受けて勧請されたものである。もう一つ、浅井姫の神格は龍もしくは鯰なのである。もうお気づきになったと思うが弁財天と大蛇が登場する壺阪寺縁起譚は、竹生島とも深い因縁を持っていたのである。

特別展示では、明治の「壺坂霊験記」を長浜曳山祭のシーンと重ねて紹介するのは勿論のこと、さよ姫伝説、そして国指定重要無形民俗文化財として全国でも珍しい愛知県知立市の山車文楽「壺坂霊験記」の人形も併せて展示します。ご期待ください。

背景：坪坂縁起絵巻（壺阪寺蔵）

■主な展示資料

「壺阪寺縁起」大掛絵（明治時代）	一枚	壺阪寺
歌舞伎「壺坂霊験記」招き（明治時代）	一枚	壺阪寺
国指定重要無形民俗文化財 知立山車文楽山町「壺坂観音霊験記」人形 （江戸時代後期）	二休	知立山車文楽山町
知立山車文楽山町床本	四冊	知立山車文楽山町
竹生嶋出現尊像（江戸時代後期）	一幅	長浜城歴史博物館
「壺坂霊験記」大道具	一式	長浜曳山祭 萬歳樓瀬田町組
浪曲「壺坂霊験記」レコード	三枚	個人蔵
床本「壺坂霊験記」	二冊	個人蔵

2階企画展示室にて同時開催

特別陳列「飾金具・塗り・蒔絵—長浜仏壇のかたるもの—」

長浜仏壇の特長は、江戸時代から受け継いだ伝統的手法による落ち着いた様式美にあるといえるでしょう。その美しさを構成するものが「飾金具」「塗り」「蒔絵」などの職人による技です。本展示では長浜の旧家に伝わる仏壇がお洗濯されるのを機にそのすべてを展示します。 展示資料：飾金具、蒔絵下絵、仏壇下絵（山縣岐鳳筆）、関連文書など50数点

ほか

■特別展記念講演会「壺坂観音霊験記の世界」

講師 **細田 明宏 氏**（帝京大学文学部准教授）〈会場〉曳山博物館 伝承スタジオ



平成25年 11月16日(土)

13:30~

～霊験譚から浄瑠璃、歌舞伎
そして浪花節～

浄瑠璃『壺坂』の成立までとその後の歌舞伎、浪花節への展開についてわかりやすく解説していただきます。

■略歴

1967年生まれ
京都大学大学院 人間・環境学研究科 文化・地域環境学専攻 修士課程修了
東京大学 教養学部 基礎科学科 修士課程修了
人形浄瑠璃について幅広く研究をおこなう。明治以降の新作浄瑠璃や地方人形座について論文を発表。

■主な著書など

「比較文化への視点」（共著）・「近代日本における音楽・芸能の再検討（Ⅰ・Ⅱ）」（共著）ほか多数

聴講料
無料

山縣岐鳳 筆



滋賀県長浜市元浜町14番8号
TEL0749-65-3300、FAX0749-65-3440
<http://www.nagahama-hikiyama.or.jp/>
（交通案内）JR 長浜駅から徒歩6分
長浜ICより車で10分

NAGAHAMA HIKIYAMA MUSEUM

曳山博物館

ON THE CROSSROAD OF OTEMON St. AND HAKUBUTSUKAN Ave.